

大会特別規定

1. チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。但し、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議して決定する。
2. 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は、前試合の4回終了後とし、当該チームに連戦のチームがある場合は、前試合終了後とする。各チームの監督、主将は、所定のメンバー用紙を4通持参し本部に提出の事。
3. スコアラーを1名ベンチ入りさせることができる。ただし中学生に限る。(男女は問わない)
4. 全試合7イニング(100分以内)とし、得点差によるコールドゲームを適用する(5回7点差)。但し、試合成立は5回とし、暗黒・降雨・雷などによるコールドゲームは成立する。なお、天候・ケガによる中断があった場合は、本部席の判断によりロスタイムとする。また、100分の計測は本部席の時計を基準とする。
5. 【暗黒・降雨・雷などで試合が途中で中止になった場合】
 - ・ 5回以内で中止の場合…翌日の第1試合に先だってサスペンデットゲーム(継続試合)を行う。但し、決勝戦においては再試合とする。
 - ・ 5回を終了して中止になった場合…試合成立(決勝戦も含む)。同点の場合はサスペンデットゲームとする。
6. ベンチは、トーナメント表の若番(左側)のチームを1塁側とする。
7. シートノックは後攻より行い7分以内とする。但し、状況によって短縮、省略することもある。シートノックは参加登録者のみで行う。
8. グランド内での練習は、ダイヤモンド外で行うこと。(シートノックは除く)
9. バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。
10. 事故防止のために、捕手のマスク、レガーズ、ヘルメット、プロテクター、セフティーカップ、スロートガード、及び打者・走者・ランナーコーチはヘルメットを必ず着用すること。
11. 突発事故が起きた場合に、審判団が必要と認めた場合、臨時走者を許可する。(臨時走者は、投手・捕手を除く打順前位の者とする。)
12. 天候等(降雨・雷・暴風等)によって、試合の進行を中断することが出来る。
13. 選手交代の申し出は監督が行う。
14. ルール上の疑義に対しては、監督が直接審判に質問する事が出来る。
15. 野球規則3・03原注(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない)と野球規則8・06(1イニングに投手へのアドバイスのためのタイムが2回取られた場合、自動的に投手交代となる。)は本大会でも適用する。
【タイムの回数について】
 - ・ 選手が1試合においてとれるタイムの回数は7イニングで3回とする。特別延長からは2イニングに1回とする。
16. 投手は1日7イニングまで投球できるものとする。(特別延長の場合はこの限りではない)
17. 延長戦は行わず、特別延長戦(タイブレイク方式)を採用する。
【特別延長戦】(タイブレイク方式)
 - ① 7回終了もしくは100分を越えた回の裏の攻撃が終了した時点で、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死満塁の状態から行うこととする。

- ② 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順（継続打順）のものとする。
 - ③ この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者、そして、2塁走者の前の打順のものが3塁走者となる。
 - ④ この場合の代打及び代走は認められる。
 - ⑤ 勝敗が決しない場合には以後継続打順でこれを繰り返す。
- ※ 決勝戦については、100分以内の制限・得点差によるコールドゲームはなく、7イニング制にて行う。
また、延長になった場合、8、9回は通常の延長戦を行い10回からタイブレイク方式とする。
- 18. 監督・コーチは選手と同一のユニホームで背番号をつけること。（監督30番、コーチ28・29番とする）
アンダーシャツ、ストッキング、スパイク等も選手と同一色で統一すること。（人工芝用スパイク可）
 - 19. 監督・コーチはコーチャースボックスに立つ事が許される。

競技上の注意事項

- 1. 天候による大会実施の可否については各チームに大会本部より連絡する。（試合開始60分前を目途）
- 2. メンバー交換用紙は、大会受付時に配布する。
- 3. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはすみやかに所定の位置に着くこと。
- 4. 打者はみだりに打者席を外さない事。監督、コーチのサインは打者席から見る事。
- 5. 無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。
- 6. テーピングは投手の指先は禁止、その他については審判団の判断に従う事。
- 7. ファウルボールの処理は、両チームが行う。審判へのボール渡し等のボールボーイの役割は当日一塁側ベンチのチームが行う。
- 8. 本塁打を打った打者に握手やハイタッチ等を求めるためにグラウンドに出てはいけない。
- 9. メガホンは監督、コーチのみが使用する事が出来る。
- 10. 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで行い、次の試合のために速やかにベンチを空ける事。
- 11. 試合後のグラウンド整備は両チームが行う。
- 12. 応援団は次の禁止事項を守ること。これについては監督、コーチが責任を持って事前に指導する事。
 - ① 紙吹雪、紙テープ、個人名の入った幟（のぼり）などの使用。
 - ② 「野次」など相手に不利になるような応援。
 - ③ 応援席は観戦終了後周りを片付けてから離席する事。
 - ④ 鳴り物での応援は禁止とする。
- 13. ノッカーは選手と同じユニホームを着用する事。
- 14. ユニホームの着用が乱れた状態では競技に支障をきたし、なおかつ怪我に繋がることから、指導者は十分に指導徹底する事。
- 15. ゲーム間を20分取っているが、ゲーム前のシートノック・グラウンド整備等が出来次第、次のゲームを開始する。
- 16. 次試合の先発投手に限り、5回終了後よりブルペンを使用することができる。